

50 准看護制度の歴史

長門谷 洋 治

看護婦問題を考へるさい准看護婦のことを避けて通るわけにはいかない。

准看護婦という名はすでに大正四年の『看護婦規則』に出でくる。同規則で看護婦資格を有しない者でも地方長官の履歴審査により准看護婦免状を受けることができることとされた。

昭和二二年に『保健婦助産婦看護婦令』が公布されたが、ここでは看護婦を甲種と乙種にわけ、乙種は「医師・歯科医師又は甲種看護婦の指示を受ける」とし、都道府県知事の免許とした。甲種看護婦は厚生大臣の免許であるが、その前提である甲種看護婦試験は三年以上の看護に関する学科を修めた者が受験できた。しかし乙種から甲種へ

の道も開かれており「免許を得た後三年以上業務に従事し、高校を卒業し、甲種看護婦養成所などで一年以上修業した者」が甲種看護婦試験を受けられるとした。なお乙種の教育期間は二年であった。本令の内容はそのまま昭和二三年の保健婦助産婦看護婦法(保助看護法)にひきつがれた。

本法については、①看護婦に甲種・乙種の二種あること、②乙種に業務制限を設けたことなどに疑義が出された。昭和二五年、看護制度審議会が設けられ、甲種・乙種の区別を廃して看護婦一本とし、別に看護助手を置くという案が出されたが、これと別に同二六年、衆議院 青柳一郎ほか九名による議案が国会に提出・議決され保助看護法の一部改正が行われた。本改正で①甲種・乙種の区別を廃する、②看護婦をたすけ看護の総力を構成する要員として准看護婦の制度を設けるとし、ここに新しい准看護婦(准看)が登場した。乙種看護婦は旧看護婦規則による看護婦試験に合格したもののみなされた。のち旧看護婦規則による看護婦は希望により無条件で新制度による看護婦として認められることになったから、乙種看護婦という資格の者はなくなった。オツカンと称された彼らはほぼ准看に対応する内容

であったが、この段階で甲看との階級差がなくなり、乙看には有利な取扱いとなった。乙看は昭和二六年に第一回の卒業を見、同二九年に廃止された。

それまで看護婦養成所であったところは乙種看護婦養成所に転換したところが多かった(甲種看護婦養成所は国公立か日赤などがほとんどであった)が、これらはさらに准看養成所に名称変更するのが通例であった。准看教育は昭和二六年に始まり同二八年第一回の卒業を見、現在に及んでいる。

戦後の看護制度の改革についてはGHQ公衆衛生福祉局の圧力が大であったが、アメリカの看護制度はRegistered Nurse (RN), Licensed Practical Nurse (LPN), Aides の三より構成され、資格を有しているのは前二者である。RNとLPNとは一線を画し、LPNの経歴を生かしてRNへと進む道はない。アメリカは自国の制度をそのまま日本に強要はしなかった。ただ当時の公衆衛生福祉局のボス、サマス准将は准看護婦にあたる職種を Assistant Nurse (補助看護婦) と称するようにという意見を出した。結局、准看護婦という名称はそのままとして、実態は Assistant

Nurseとするということに落ちついた。現在も准看護婦の英語表示は Assistant Nurse で保健婦を Public Health Nurse と表すのとともに、当時の世情を反映しているといえよう。

またわが国では准看から看護婦へのルート(二年課程、進学コース)が準備され、昭和三二年に発足、同三四年に第一回卒業生が出た。同三七年にはこの課程の定時制(三年間)もできた。同三九年には職業高校である高等学校衛生看護科が設置され、同四二年にはその最初の卒業生をみた。

准看養成にもっとも力を注いだのは医師会である。開業医の戦力となるのは准看であるのがその最大の理由であるが、中卒者の高校への進学率が高くなるのに呼応して、准看資格取得と同時に進学コースに進む者が多くなり、単純な計算では約半数がその道を取るようになっていく。さらに厚生省自らが看護婦需給計画を狂わす駆け込み増床、ゴールドプランを打ち出したことにより、全般に深刻な看護婦不足を招来するに至った。

看護関係の基本的な法規は保助看法であるが、准看制度

を導入した昭和二六年以降約四〇年間で抜本的な改正は行われていない。二一世紀を踏まえたあらたなビジョンが必要であろう。

(大阪府豊中市・皮膚科)

51 米国長老教会婦人宣教師ミス・リードの日本における活動

平尾 真智子

ミス・リードは米国長老教会の婦人宣教師で、わが国で最初に看護婦の教育を行った人物である。彼女は一八八一年に来日し、一八八八年にミッソンを辞任するまで約七年間日本に滞在した。今回、アメリカにある長老教会の歴史資料館でリードに関する資料を得る機会があり、それ以来これまでに得られている日本側の資料を加えて彼女の日本での活動をまとめた。

リードはニューヨーク婦人伝道協会の所属であり、一八八一(明治十四)年十月二十九日に来日した。そして現在の女子学院の前身であるグラハム・セミナリーでI・A・リート、ミス・スミス、L・A・リートらと一緒に働いた。彼女はここでアシスタントをし、一日二時間教えている。